

# YAMAKADO NEWSLETTER

NO.103

2008/06/25

山門水源の森を次の  
世代に引き継ぐ会

環境変化をつぶさに観察する必要が・・・  
短期の観察では語れない・・・

恒例になってしまった初夏のマルバマンサクの葉枯れ (08/05/20)



ミズナラ枯死密集域 (08/01/09)



ミズナラの実生 (08/06/09) 最近の降雨の pH 測定では 3.8 という値も観測されており生物への影響が懸念される。また今年のモリアオガエルの産卵では、湯水ということもあるのだが、降雨が順調であっても卵塊の下部に水が存在しない場所での産卵が目だったことである。このようなことは、いつでも何処でも起こっていることなのだろうか。いずれにしても長期の観察が必要である。

「山門水源の森」で観察される生物の様々な異変（極短期間での観察による異変なのか、長期的に観ても異変なのか不明なことが多いのだが）が、世界的な「温暖化問題」とか「酸性雨問題」の影響に寄るのか明確な指標は無いのだが、日々の観察で観察者が「異変」と思われる記録を残していく必要性が日々高まっているように思う。8 年ほど前から始まったこの時期のマンサクの葉枯れは、今や全国的に広がっており被害葉から病原菌が検出され、その菌が原因かどうか現在接種試験等が行われている段階。またミズナラ（山門水源の森では、現在は止まっているがコナラも）に発生しているカシノナガキクイムシによる枯死も、山門水源の森では 1990 年代から目立ち始めた。



水無産卵 (08/06/10)



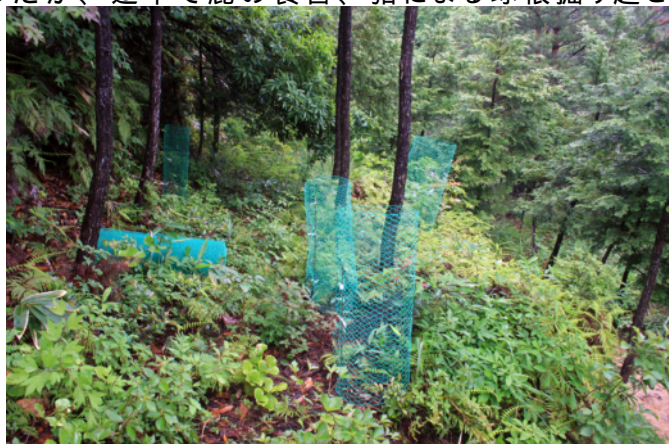
# ササユリの多様性の取り組み



開花したササユリ ( 08/06/20 )



金網設置作業 ( 08/05/28 )



金網設置場所の様子 ( 08/05/31 )



開花で一時撤去作業 ( 08/06/06 )



花終了段階で再設置 ( 08/06/14 )

しによってこのサイクルが完結しないことが明らかになった。このことを踏まえ本年は新たな取り組みを実施している。開花1週間前後前の蕾段



PHOTO BY HIRAKI



山門水源の森の様々の色合いの個体

同一個体鱗片からの増殖 ( 平木氏提供 ) から食害防止金網を設置。開花後金網一時撤去 ( 来訪者サービス )。花が終了次第再設置 ( 果実を食害から護る ) という作業を行っている。今後果実の結実を待つことになる。この段階での虫害もあり最終的に完熟する個体数は減少するが、完熟種子 ( 1個の果実に 200 ~ 300 の種子 ) を現地で播種し、一部は育種用に採取しようと考えている。同一個体からの鱗片培養での増殖が盛んだが、花の多様性が保てないからである。